
光と闇にみちびかれて

創涙ハカル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

光と闇にみちびかれて

【Nコード】

N84480

【作者名】

創涙ハカル

【あらすじ】

光条まどかは 幼い頃から 風に守られているのを感じていた。
ある日 親友、夕闇華恋と帰り道
突然 まばゆい光にさらされる。
ふと目を開けたとき
そこは 見知らぬ世界だった。

光

「やっぱ、遅刻しちゃう」

携帯を見ると 時刻は朝の8時だった。光条まどかは汗って走りだす。

しばらく走っていたが、公園を通り掛かると足を止めた。

そこには木の近くで泣いている女の子が一人。

「どうしたの？」

まどかが声を掛けると女の子は木を指差して、あれが取れないのと訴えた。

まどかが見上げると木の枝に赤い風船が引っ掛かっている。

「大丈夫。お姉ちゃんが取ってあげる！」

そういうと まどかは木によじ登ると 風船に向かって手を伸ばした。しかし、もう少しというところで手が届かない。

「お姉ちゃん、頑張って〜」

女の子の声援に まどかは体全体伸ばしてみた。すると風船に手が届く。

「届いた！」

と安心した瞬間、ズルツと手が木から外れてしまった。

（落ちる……！！）

咄嗟に目をつぶると、途端に強い風が吹きまどかの体がフワッと宙に浮いたかと思うと ゆっくりと地面に着いた。

「た、助かった……」

呆然としたが 目の前に女の子が大丈夫？と心配そうに顔を覗きこんできたので、慌てて笑顔になり

「大丈夫。はい、これ」

と赤い風船を女の子に渡した。

「お姉ちゃん、ありがとう」

女の子が喜んで去っていくと、まどかは へたつと崩れ落ちた。

（ふう……。また、風に助けられちゃった）

そう、まどかにとって これが初めてではなかった。

「幼いころ、崖から落ちそうになった時 いきなり強風が吹いて落ちずにすんだりと、まどかは幼い頃から風のおかげで難を逃れていた。

しかし 何故風は守ってくれるのだろっ。まどかはそれがわからずにいた。

「なんでなんだろう…」

まどかが考え出すと、しばらくして

・キンコーンカーンコーン

学校のチャイムが聞こえた。

「うつひゃああ、遅刻〜!!」

まどかは慌てて走り出した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8448o/>

光と闇にみちびかれて

2010年11月11日07時36分発行